



## 視察先選びのポイント

● 小久保利佳

議員視察の幹事としての初仕事は視察先を選ぶことでした。選定のポイントとして新島村のためになることと、新島村と同じくらいの自治体規模のところを考えました。時々購読している『TURNS』（人・地域・暮らしをつなぐ、をテーマにした雑誌）の中に、少子高齢化、過疎という新島村と共通の問題点を抱え、自治体規模も同じくらいの高知県梶原町の集落活動センターの記事を見つけて、住民自治の現場視察をしたいと思いました。

また高知県は太平洋に面した地域であり、防災・津波対策も先進的な地域であることから、そちらもあわせて視察先に決めました。

# 高知県 議員視察

5月13日から15日まで、議員9名および議会事務局1名の総勢10名で議員視察研修を行いました。

今号では参加議員によるリレー形式で視察内容を報告します。

編集：木村 諭史・小久保利佳

## 視察レポート



四国視察ルートマップ  
土佐湾沿岸から山間部の梶原町

## 1 高知県南国市 避難タワー

● 綾とおる

南国市（なんこくし）の、津波避難タワーを視察しました。南国市は県都・高知市の東側隣に位置し、人口47000人余りです。南は土佐湾に接し、北部は四国山地南端に連なり、沿岸部から中央部の高知平野に至る。ほぼ平坦な地形が印象に残っています。津波対策の緊急性・重要性を痛感いたしました。

### 過去の教訓を生かせ！

高知県は、過去にも大きな地震、津波に見舞われ、甚大な被害を出してきました

### 津波を避ける！ 命を守れ！

た。平成24年、内閣府の「南海トラフ地震」の想定で、高知県は、震度6強〜7、黒潮町などで全国最大の34mの津波予想。その後、全県的に津波から「命を守る」ことを最優先課題に掲げ、津波避難空間の確保を進め、平成29年3月には避難路・避難場所などの約9割が完成。当村と比べ、極めて素早い取り組みだと感嘆しました。

### 「質実剛健」弱者にも配慮

南国市は、最大震度6強〜7、津波高15m超の想定。南国市のハザードマップでは、海岸線近くに14基の津波避難タワーがずらりと並び、その奥側（海から）には非浸水域の高台などに一時避難する避難場所、さらにその奥の安全地帯に一

定期間生活するための避難所が配置されています。「命を守る」から「命をつなぐ」との強い思いが具現されています。

津波避難タワーは、何の変哲もないコンクリート製の太い柱で、3階建てです。まさに「一時的に津波から避難」するためだけに作られたように見えます。1階、2階は壁もなく津波は素通りします。さらに、タワーの外周にはスロープが設置され、車いす、高齢者などへの配慮も行き届いています。当村における津波避難施設の整備において、見るべき点は多いです。

## 2

### 地域防災拠点・ 安芸市消防 防災センター

●青沼弘



▲安芸市消防防災センター 高機能消防司令システム・消防救急デジタル無線システムを有し、災害時には救助や支援派遣を円滑に行えるよう海岸部の監視カメラ・潮位計システムを設置。地域防災の拠点となる。

安芸市消防防災センター（消防本部）は、災害時の拠点として大事な施設です。高機能消防指令システム・

消防救急デジタル無線システム・災害監視カメラ・潮位計システム等の設備を兼ね備えています。センターの3階には、災害対策本部・消防団本部・避難室などがあり、災害時には、千人以上が避難できるようです。ここ安芸市も南海トラフ地震により津波が想定されることから、市役所には危

機管理課もあり、津波避難路の整備はもちろん、避難所の環境整備・避難所運営マニュアル・自主防災組織の育成をしています。防災訓練は、市で行う訓練の他に、自主防災組織による独自の訓練、学校単位での訓練を、年に数回行っているそうです。

私が感じた事は、子供からお年寄りまで、一人一人が防災に対する意識を強く持っているという事です。新島村でも、南海トラフ地震の際には、推定30メートルの津波が予想されます。近年、起こりうる災害に対し、人的被害をなくすため

には、島民一人一人が危機感を持って防災に取り組んでいかなければなりません。また、村・自治会・消防団・学校等が連携して、災害に強い村づくりをする事が必須の課題だと思えます。

## 3

### 充実した 桄原<sup>ゆすはら</sup>町議会訪問・ 意見交換

●山本均

村議会の視察研修では必ず行つた先の議会を訪問し、意見交換をする習わしがあります。今回の四国・高知

県の研修では事前交渉の結果、2日目に桄原（ゆすはら）町議会で受け入れてくれることになりました。

この地元議会との意見交換は減多に体験できるものではなく、毎回楽しみでした。前回は長野県の喬木村議会、

その前は伊豆半島の伊豆市議会とそれぞれ誠実に対応していただき、みなさん率直なオープンマインドでお互いの立場が以心伝心通じ合うようで、共感できることが多くありました。

議会からは8名の議員のうち土釜（どがま）議長、下元副議長に出席していただきました。議員の構成は当選1回の新人議員が2名、3回・4回の中堅議員が3名（議長、副議長はこの中）、それと7回・8回のベテラン議員が3名。本職は農林業という議員が5名、あとは飲食店経営や会社員となっています。

林業は全国的にずっと下降線を辿って状況は大変厳しく、山間部の農業も同様のようです。議員の役割の一つに、地域住民のみなさんを励まし元気づけ頼れる存在になるということがありとするとするならば、広範囲な地域で同時進行するさまざまな問題を見るにつけ、無力感に襲われることもあると思えます。地域の枠を越え意見を交換することの意義が、今後ますます重要になってくることを痛感しました。





▲住民自ら出資・運営する四万川地区集落活動センター。ガソリンスタンドに加え、店舗部分には直売コーナーもある。

## 4 住民自ら運営する 四万川集落 活動センター

● 青沼喜六

高知県では集落活動センターを核とした集落維持の

仕組みづくりを推進しています。その中で特に目を引いたのが、住民出資で株式会社を設立して、地域内唯一の給油所を復活させた、四万川区集落活動センターです。それによって住民の暮らしを支えている事に心をうたれました。

この町は、6つの区からなり、さらに区は6から15の集落で形成されている。隣家や他の集落と数キロは離れているのではないかと思われる一軒家や、数軒の集落も散見される。面積は新島の約9倍で、うち91%を森林が占めるが、高齢化率は約43%で、人口減少、空き家対策、人口誘致問題等は新島に似ている。

## 5 「雲の上の町」 栲原町の まちなみついて

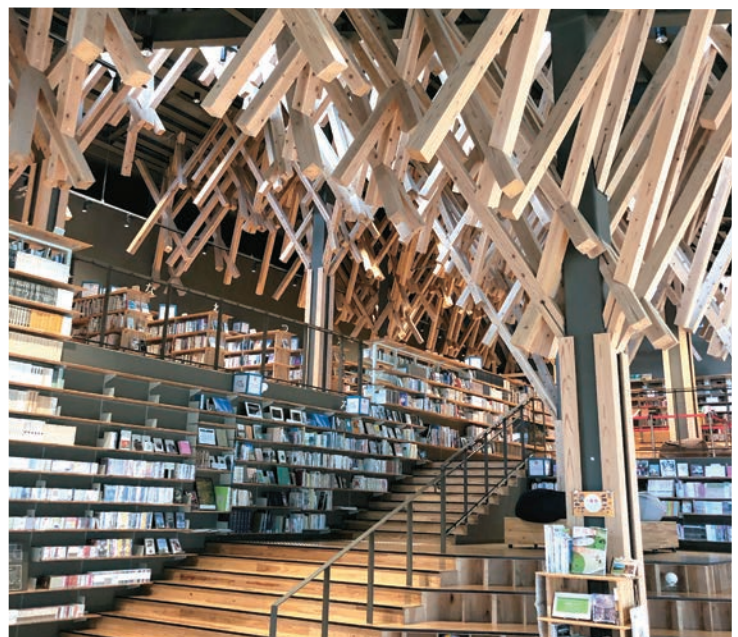
● 前田泉

幹線道以外の道路は狭く、アップダウンも激しい。それもそのはず、ここは雲の上の町「ゆすはら」。人口が新島村より800人弱多い『町』です。そこここに棚田が点在している。

いずれも衰退業種の林業・山間農業の町であるが、予算規模は一般会計で25億円。総額で21億円も新島村を上回っている。この背景には太陽光・地熱・風力・水力利用の環境モデル都市として、国や県の大規模補助があるものと見られる。

環境モデル都市だけあって、街並みは整備されていて、清掃も行き届いている。役場庁舎・図書館始め大型施設にはふんだんに地元産の木材が使われ、全て木造である。官民一体となり、町の存亡をかけての努力を感じた。

新島村も、まずは住民一体となってルールを守り、観光地としてのきれいな村を目指しましょう。



▲地元産の木材を活用した、ゆすはら雲の上の図書館は、オリンピックスタジアムとなる新国立競技場を手がけた世界的建築家・隈研吾氏の設計。カフェスペースやボルダリング(岩登り)コーナーまである。

